

ちえふくらう



〒108-0014 東京都港区芝 5-27-5

NPO法人 人生まるごと支援

TEL 03-3453-6210

FAX 03-3453-6208

【7人の師】

私は人の人生や、生き死に関わる仕事をしています。現場で『どうする』か判断に迫られることがあります。

その際に『ちょっと待ってください』『みんなと相談してお返事します』などといっている余裕がない場面も度々あるのです。私自身どうして良いか、どうすることが本人(認知症やがん終末期)にとって良いのか、の答えが出ず、迷い、私自身が参ってしまうこともあります。

そんな私には、NPOの活動を行う上で、指針となる『7人の師』がいます。私が迷ったときに7人の師の中から『この人だったら、この場面ではどうするだろうか』と心の中で問いかけます。幾度となく救われ、私の背中を7人の師が押してくれているのです。

そのひとりが、樋野興夫(順天堂大学名誉教授・病理医)先生です。樋野先生は2008年に『がん哲学外来』を開設し、院外初の『がん哲学外来メディカルカフェ』を横浜でスタートし、現在日本全国、海外も併せて200カ所の『がん哲学外来カフェ』が活動をしています。

病理医である樋野先生の言葉で『手術室から運ばれる組織や細胞を顕微鏡で観察し、30秒で確定診断を行う必要がある』『手術台の上でお腹を開いた状態の

患者さんに対して「悪性腫瘍かどうか、ちょっと難しいので、誰かと相談して、明日返事します」などとは言えない。

自分ひとりで答えを出し、責任は自分が取る覚悟が必要である』と仰っていました。私は現場で迷った際に樋野先生のこの言葉を思い出しています。

もう一人の師は陣川チツ子(看護師・ケアマネジャー)さんです。先日横浜がん哲学外来18周年シンポジウムのパネルディスカッションに登壇し、18年前の事を話されました。それは横浜のホテルロビーで樋野先生ががん患者さんの面談をしている現場に初めて行った際、ロビーには煙草の煙もあり、陣川さんは『こんなところではダメですよ、私の勤めている医師会の事務所を使ってください』と思わず言ったのがはじまりだったのです。

その時のことを陣川さんは回想して、その場で何かに動かされるように決断してしまった、と言われていました。

その話を聞いて、まさに樋野先生が仰る『即効性と英断』だと思いました。

陣川さんは現在92歳、現役で訪問看護ステーションの看護師&ケアマネジャーをされています。実践されている陣川さんのことを思うと『私も、もう若いから、難しい』などと言ってもらえないのです(笑) 三国浩晃